

「つみたてNISA」の利用者は開始3カ月で51万人!  
6月は投信全体/NISA既存投資家ではグローバル株や日本株、  
NISAファンドではグローバル株やアセットアロケーションが人気!!

商品マーケティング企画部 松尾 健治  
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

## 「つみたてNISA」の利用者は開始3カ月で51万人!

2018年7月2日に金融庁は2018年1月から本格始動した「つみたてNISA(少額投資非課税制度)」について、2018年3月末時点の利用状況にかかる調査結果を初めて公表した(URLは後述[参考ホームページ]①参照)。  
**つみたてNISAの口座数は50万7462口座。**2017年12月末時点で、つみたてNISA口座の申込件数が約25万件だったので(2018年1月12日付日本経済新聞 URLは後述[参考ホームページ]②参照)、3ヶ月で2倍になった事となる。**世代別にみると20~40代の利用が6割強(63.9%)を占め、金融庁のヒアリングベースでは最新2018年5月末には7割(67%)に達している。**2014年1月から導入され今年で5年目を迎える**一般NISAは1117万1893口座に達するが、20~40代が約3割(29.3%)**であり、つみたてNISAの利用が若年層で進んでいる結果となった。

NISA口座の開設・利用状況調査(2018年3月末時点)

2018年7月2日付金融庁公表のNISA取扱全金融機関(銀行・証券会社等)。

2018年7月2日現在

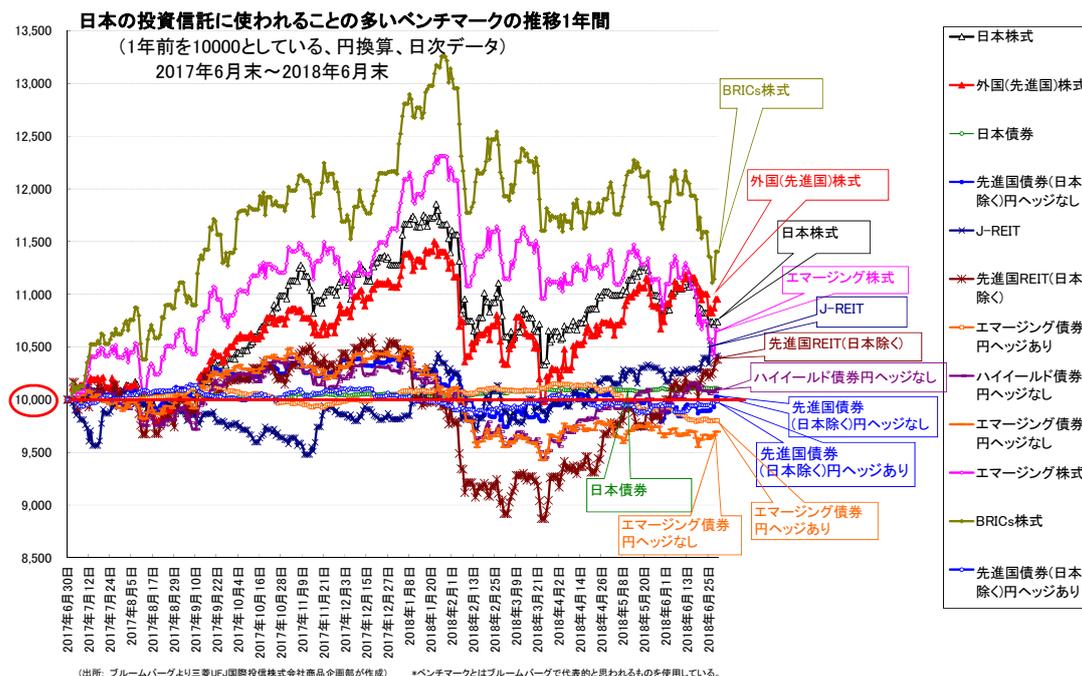
		NISA(一般・つみたて)		一般NISA		つみたてNISA		ジュニアNISA	
口座数		11,679,355		11,171,893		507,462		269,723	
20~40歳代の口座開設の割合(%)		30.8%		29.3%		63.9%		-	
累計買付額(総購入額)(億円)		139,399		139,288		111		856	
年間買付額(総購入額)(億円)		14,074	構成比100%	13,963	構成比100%	111	構成比100%	190	構成比100%
投資商品	上場株式(億円)	6,821	48.5%	6,821	48.8%			89	46.9%
	投資信託(億円)	6,854	48.7%	6,743	48.3%	111	99.96%	92	48.7%
	うちインデックス投信(億円)	-	-	-	-	73	65.52%	-	-
	うちアクティブ運用投信等(億円)	-	-	-	-	23	20.31%	-	-
	ETF(億円)	245	1.7%	245	1.8%	0	0.04%	6	3.4%
	REIT(億円)	155	1.1%	155	1.1%			2	1.1%
導入時期		一般NISAは2014年1月 つみたてNISAは2018年1月。		2014年1月		2018年1月		2016年 (*1月から申込、投資は4月から)	
備考		投資商品別の買付額は平成30年の利用率による。		投資商品別の買付額は平成30年の利用率による。		*「少額からの長期分散投資を後押しする制度として普及を図りたい」 (2018年1月4日付麻生太郎財務相兼金融担当) *ETFの買付額は493万円/0.04%。		*未成年(0~19歳)を対象 *投資商品別の買付額は平成30年の利用率による。	

(出所: 金融庁より三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

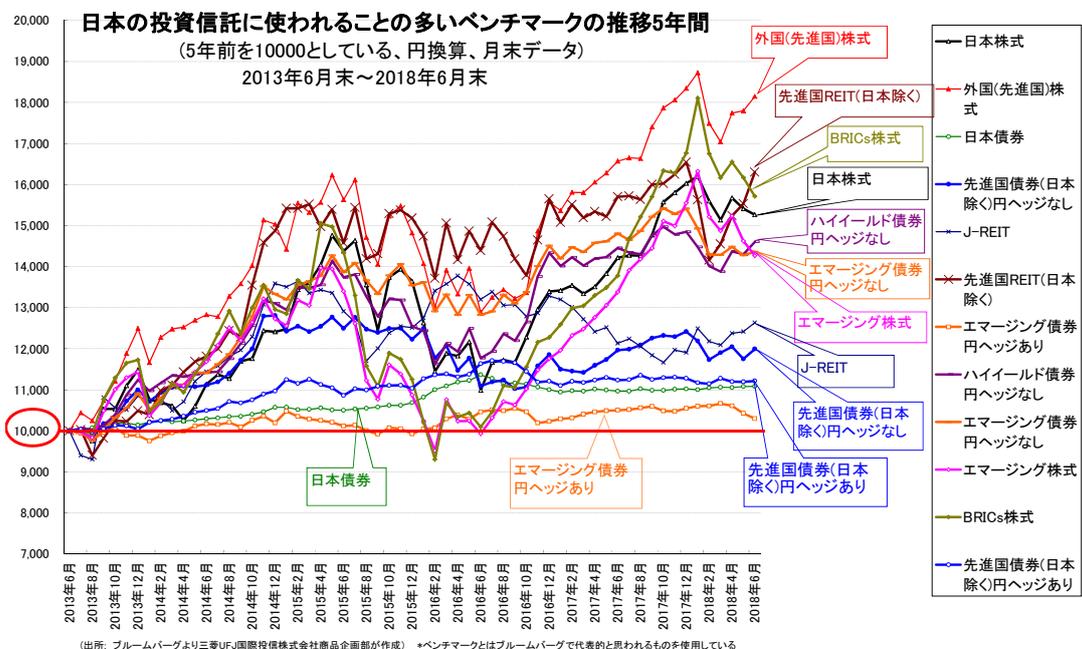
NISAでは2018年6月までの様な投資が行われてきただろう。以下は、つみたてNISAを含むNISAの投資対象となる投信(ETF含む)について、最新2018年6月の投資家動向を見たものである。投信は、一般NISAの投資でも約半数を占めており、投信で何に投資されているかの情報は、一般NISAに多いと思われる投資の経験者にも、参考になると思われる。

## パフォーマンスは先進国株式が良好

まずはパフォーマンスを見る。次頁グラフは日本の投信に使われることの多いベンチマークの2018年6月末までの1年間のパフォーマンス推移である。1年のパフォーマンスの好い順に、BRICs株式、先進国株式、日本株式、エマージング株式、日本REIT、先進国REIT、日本債券となっている(\*1年前を10000、円換算、日次データ)。



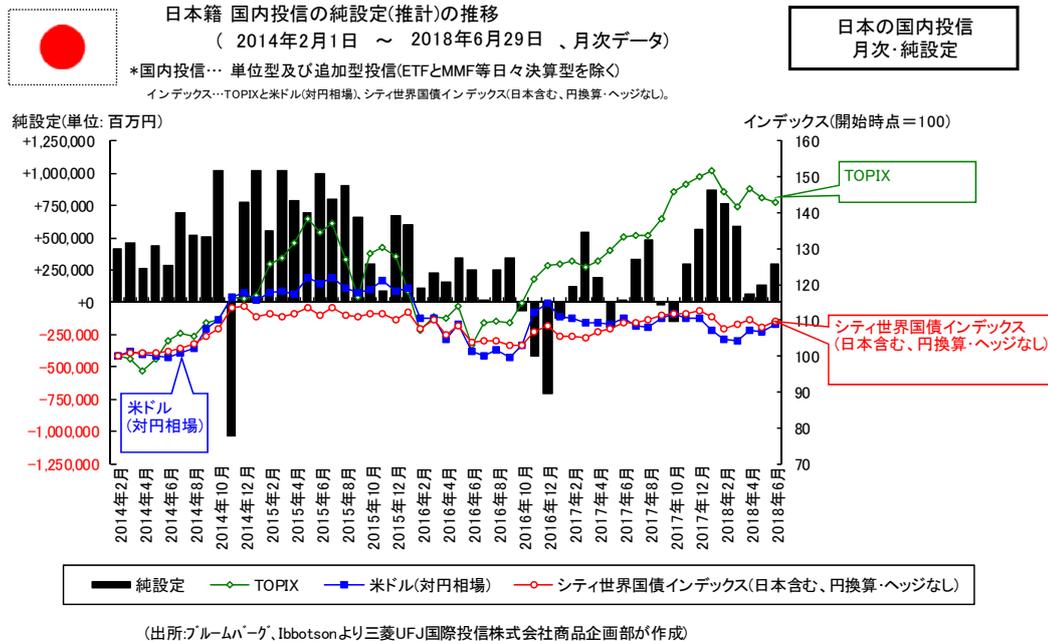
下記グラフは以上の5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国株式、先進国REIT、BRICs 株式、日本株式、ハイールド債円ヘッジなし、エマーシング債円ヘッジなしとなっている(\*5年前を10000、円換算、月末データ)。先進国株式のパフォーマンスは5年、3年では下記グラフのベンチマーク中、最も好く、2018年3月末からの3カ月で見れば2番目、2018年6月の1カ月では4番目に好かった(最も好いのが先進国REIT)。



日本株のパフォーマンスは2018年3月末からの3カ月で見れば上記グラフのベンチマークで下から4番目だったが、1年では、3番目に好く、5年では4番目に好かった。エマーシング株式のパフォーマンスは1年や3年で見れば4番目に好いが、2018年3月末からの3カ月や2017年末からの半年で見れば最低だった。

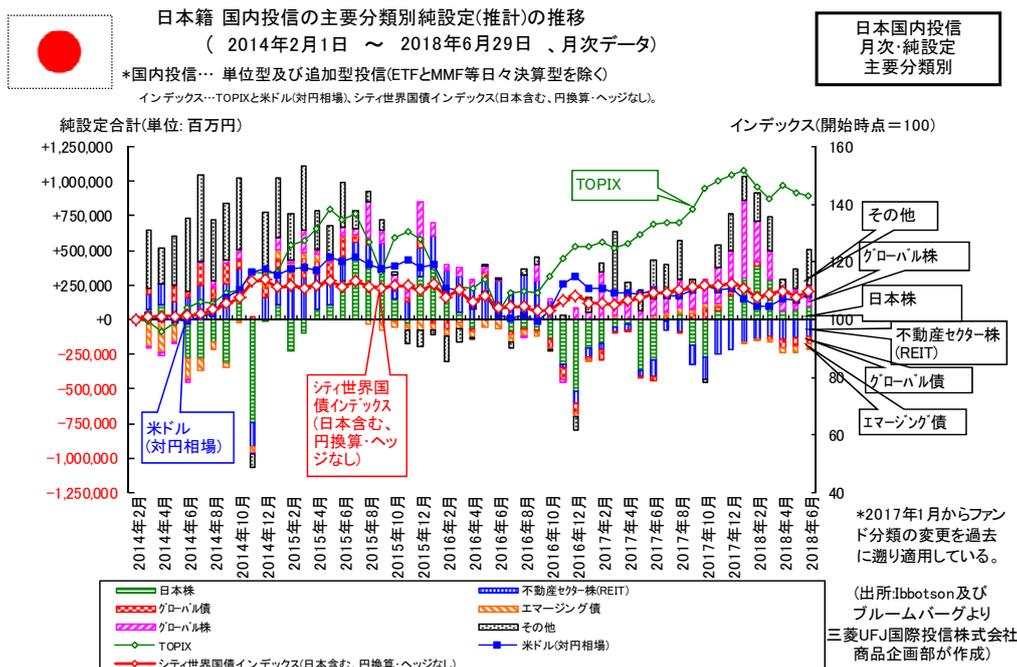
## 最新 2018年6月は投信全体/NISA 既存投資家ではグローバル株や日本株が人気!!

続いて、国内公募投信の最新 2018年6月の動向を見る。投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替、投資の未経験者層(新規投資家)はNISA向けファンド(後述※1参照)で代替する。まずNISAの既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は2018年6月に+2929億円と、4月に急減速した後2ヶ月連続で増加(←5月+1379億円←4月+626億円←3月+5932億円←2月+7659億円)、8カ月連続の資金純流入となった。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

2ヶ月連続で増加した2018年6月の既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。2018年6月に最も純設定の大きかったのはグローバル株(4月から3カ月連続1位)、日本株(同2位)、日本債(前月5月は28位)、アセットアロケーション慎重型(前月5月から2カ月連続4位)、アセットアロケーション柔軟型(前月5月は3位)、米国大型ブレンド株(同6位)(下記グラフ参照 \*主要分類…モーニングスターによる分類で2017年12月末の純資産の大きい上位5分類。アロケーション型及び日本債、米国大型ブレンド株は「その他」に含む)。



投信全体で、2018年6月に純設定が最も大きかったグローバル株だが、2017年の年間(1~12月)に約2兆円という最も大きい純流入で、2018年は6月まで半年間に約1.6兆円と、前年を上回るペースで流入が続いている。最新2018年6月の純設定は+2091億円と、前月5月(約+1500億円)を上回り1年7カ月連続の資金純流入だ。

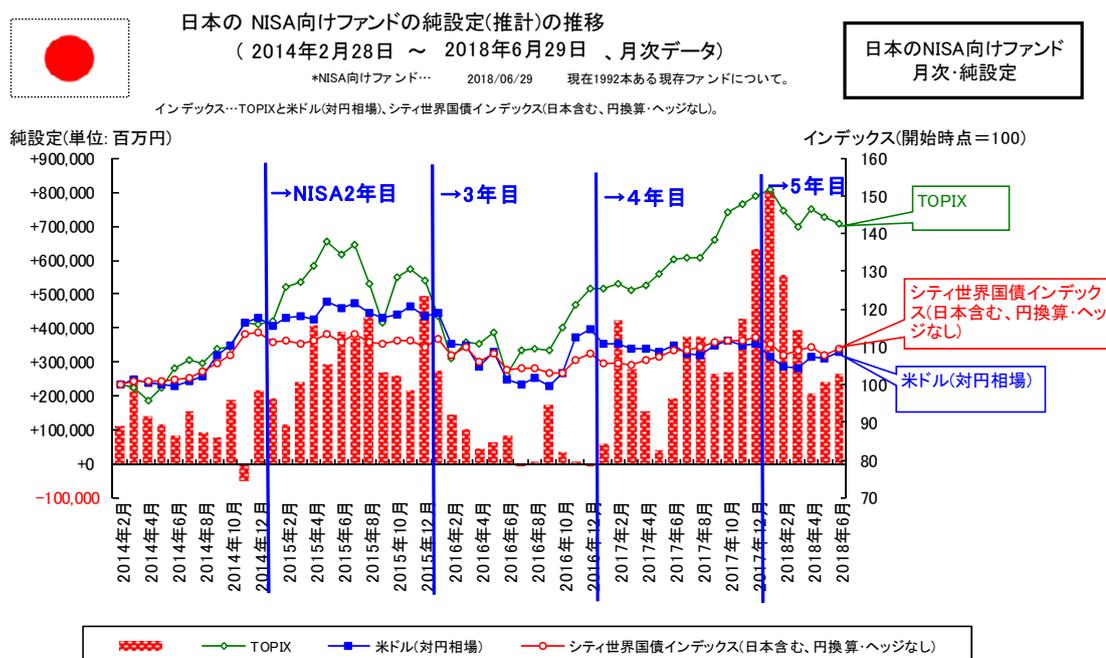
最新2018年6月にグローバル株に次いで純設定の大きかった日本株は、2017年の年間(1~12月)に約1.2兆円という純流出から、2018年は既に6月までに約1.3兆円の純流入となっている。最新2018年6月の純設定は+1211億円と前月5月(+846億円)を上回り、2017年11月から8カ月連続の純流入である。

最新2018年6月に3番目に純設定が大きかった日本債は+732億円と、2カ月ぶりの純流入で、2018年3月(+864億円)以来の大きな純流入となった。これは昨年末に設定された個別のファンドラップ専用ファンド(6月+590億円、3月+723億円)による所が大きい。

そして、2017年の年間(1~12月)に約8050億円と、グローバル株に次いで年間純設定の大きかったアセットアロケーション柔軟型は最新2018年6月に+469億円と20カ月連続の純流入となり、2018年1~6月の半年間で+3958億円と安定的な純流入を続けている。

## 最新2018年6月はNISAファンドではグローバル株やアセットアロケーションが人気!!

NISAの新規投資家の動向を示すと思われるNISA向けファンド(後述※1参照)の純設定を見る。NISA向けファンドの純設定は、最新2018年6月に+2664億円と、2017年1月から1年6カ月連続の純流入である。投信全体と同様、急減速した2018年4月から2カ月連続で増加(4月は昨年6月以来の低水準)。ただ、NISA投資開始(2014年1月)以来で最大となった2018年1月(約8000億円)の3割程度である。

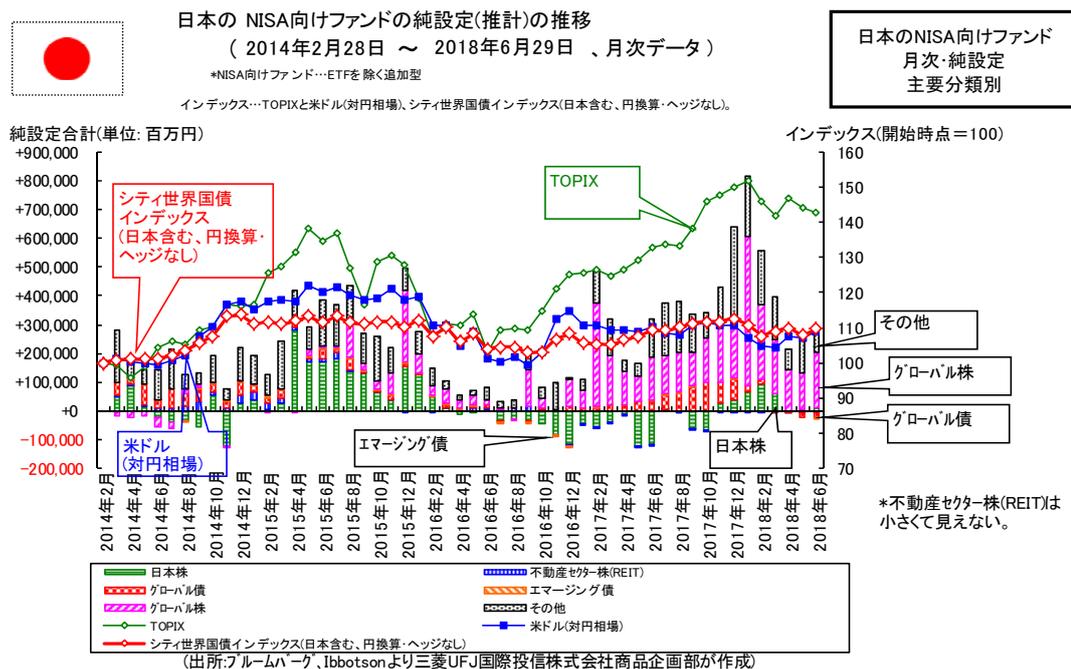


(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

※1: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(\*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ]③参照)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(\*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(\*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2018年6月29日時点で1992本となった。



このNISA 向けファンドを投資対象(主要分類)別で見ると、最新2018年6月の純設定1位はグローバル株(前年2017年10月から9カ月連続1位)、2位はアセットアロケーション柔軟型(3月から4カ月連続2位)、3位は中国株(4月から2カ月連続3位)、4位はエマージング株(同4位)、5位はアセットアロケーション慎重型(前月5月は7位)だった(下記グラフ参照。\*主要分類…モーニングスターによる分類で2017年12月末の純資産の大きい上位5分類。アセットアロケーション型と中国株とエマージング株は「その他」に含む)。



グローバル株やアセットアロケーション柔軟型は前年からの好調な純流入が継続中だ。2018年の年初来でも、純設定1位、2位となっている。特にグローバル株は投信全体と同様、前年を上回るベースの純流入である。日本株は2018年4月に6カ月ぶりの純流出となったが、6月に再び純流入に転じている。

2018年6月に純設定最大だったグローバル株は+1955億円と、NISA 向け全体の純設定の7割強を占め、1年10カ月連続の純流入。2番目に純設定の大きかったアセットアロケーション柔軟型は、足元やや鈍化しているが、NISA 導入以降4年6カ月連続純流入と、比較的安定した資金純流入が続いている。

3番目に純設定の大きかった中国株は6月に+253億円とは10カ月連続の純流入、次いでエマージング株は同+144億円と13カ月連続の純流入。ただ、足元の拡大は2017年末頃から設定されている比較的新しいファンドによるところが大きい。

2018年に始まった「つみたてNISA」の対象投信だが、6月の純設定上位10本の内、グローバル株ファンドが4本、次いで日本株ファンド(\*主に中小型株ファンド)が3本、アロケーション型となっている。グローバル株ファンドが前月(3本)から増加した(以上は「つみたてNISA」以外で購入された分も含む推計、ETFを除く)。

以上、既存投資家(投信全体)でも、「投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層」(投資信託協会～URLは後述[参考ホームページ]④参照)を中心とする新規投資家(NISA向けファンド)でも、最新2018年6月はグローバル株と日本株、そしてアセットアロケーション柔軟型が人気と言えそうである。

今後を示すものではないが、こうした情報が「商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人」(投資信託協会～URLは後述[参考ホームページ]⑤参照)が多いと思われるNISA等を検討する投資家に少しでも参考になれば幸いである。

以上

#### [参考ホームページ]

①金融庁「NISA・ジュニアNISA口座の開設・利用状況調査」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/datacollection/index.html>」

②2018年1月12日付日本経済新聞電子版「つみたてNISA開始、大手ネット証券が独走か」…

「<https://r.nikkei.com/article/DGXMZO25520390Q8A110C1000000?type=my#AwAUAgAANTc3ODc2>」、2018年1月15日付日本版ISAの道 その210

「「つみたてNISA」が本格スタート! 申込25万件!! NISA導入以来で最大の純流入となった新規投資家(NISA向けファンド)で12月はグローバル株やエマージング株、アセットアロケーションが人気!!!」…

「[https://www.am.mufg.jp/text/oshirase\\_180115.pdf](https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_180115.pdf)」

③2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」

④2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…

「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」

⑤2018年3月7日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017年」…

「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/>」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…「<https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html>」。

## 本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご留意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

### 本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。